



# 支援センターだより



2011.1.発行 vol.75

2010年も終わり、新しい年を迎えようとしています。

小平市子ども家庭支援センターもまもなく8年目に入ろうとしています。

地域の皆様に支えられ、此処まで歩んで来れましたことを感謝致します。



開設当時から関わってきました両方センター長がこのたび退職することになり、1月より支援センターの住人として入ることになりました。これまで長く小金井市にあります保育園で仕事をしていたので、子ども家庭支援センターの仕事をこれから学びながら皆様と関わっていくことが出来ればと考えております。

新しい年もご家庭を支援するスタッフと共に、皆様のお声を聞かせて頂きながら、過ごしやすい暖かな雰囲気の間づくりと相談事業に努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

新しい年が皆様にとって安心して過ごせる年になりますように祈っております。

武井 まさ子



・・・とある、出来事から・・・

帰宅途中のことです。狭い歩道と夜道の暗さで、疾走してくる無灯火の自転車には、しょっちゅうヒヤッとさせられます。その夜も背中に目というほどの用心深さで歩いていました。近づく自転車の気配、とっさに左へ寄ると、私の右の肩スレスレに自転車の若者がすり抜けていきました。その背中に「リンと（ベルくらい）鳴らしてほしいな」と軽い調子で言ったとたん、自転車をこぎつつ若者は後ろを振り向いて、暗さで表情は分からないのですが、「何を、この野郎、ぶっころ……ぞ」と叫び、走り去ろうとしました。その後を追うように母親らしき人が自転車ですり抜けつつ、「すみません」と走り去り、二人は追い合うように全力疾走の自転車で遠のいていきました。

私は「あら、ごめんなさい」と、自転車を通してあげた方がよかったのかなと思ったり、あの若者の殺伐たる言葉がずっと心に残っています。人は状況によって言葉の表現も違うものです。乱暴な言葉、投げやりな言葉、人を非難してそれに気付かない言葉、そうした否定語で自分をも痛めないように願ってきました。言葉は人を活かしも殺しもするものです。もう二度と会うこともない一瞬のできごとだったかもしれませんが、あたたかな声かけのできなかった自らを悔いる気持ちです。

・・・ご挨拶を・・・

センターが開所したばかりのとき、民生委員の婦人の方が訪問してくださいました。「何という世の中になったのでしょうか。でも、このような時代にしたのは、先に生きている私たちの責任ですね。少しでも子どもたちのために良い世の中を残したい。そのような役割を一緒にしてください」と話されました。私はその言葉に深く感動して、これからの子育て支援の大切さを受けとめさせていただいた、ひとつの出来事でした。あれから7年、多くの方々の善意、厚意の力添えをいただいて子ども家庭支援センターの働きを進めることができました。しかし、やれたことと同時に、社会面のニュース、そして周囲の出来事も楽観できる状況ではありません。これから、もっとセンターの役割が必要とされていくでしょう。スタッフたちが健康で活躍できること、問題のある所に手が届く支援のできるよう祈るばかりです。長い間センターだよりを書かせていただき、読んでくださったあなたに感謝します。

どうもありがとうございました。

両方 仁子



※12月で両方は定年退職し、1月からは武井新センター長に交代します。